

牛乳・乳製品は、日本の基礎的な食料です。

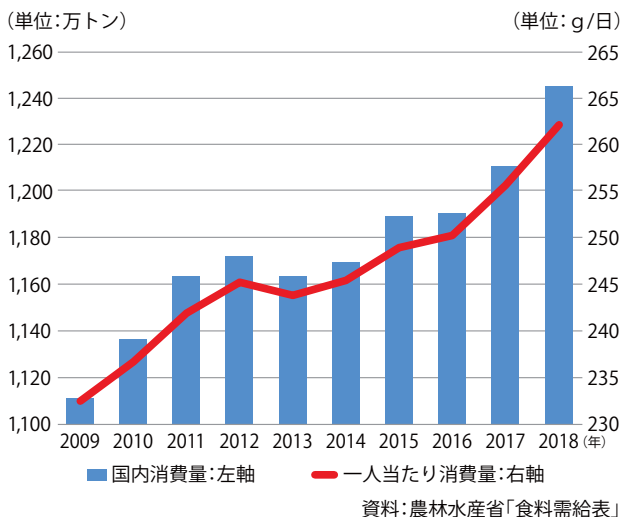
牛乳・乳製品は、栄養学的にみてもバランスに優れた完全食に近い食品といわれています。特に最近の健康志向に伴い、その消費量は増加傾向が続いています。この原料の「生乳※」を作るのが、酪農家の仕事です。

※生乳とは、乳牛から搾ったままの乳のことです。

◆安全・安心をモットーに、大切に育てた牛から搾る「生乳」

牛乳・乳製品は、お米より需要量が多いことをご存じでしょうか。平成30年度のお米の需要量は約840万t、一方で、牛乳・乳製品は約1,240万t(生乳換算)となっています。このように、日本の基礎的な食料である牛乳・乳製

牛乳・乳製品の消費量の推移 ※生乳換算



品の需要は、最近の健康志向の高まりなどの影響もあって、増加傾向が続いています。

特に牛乳は、鮮度が重要なことから、すべて国内で生産されています。「安全・安心」をモットーに、全国の酪農家が毎日、愛情を持って乳牛の



世話をして、子牛を生んだ母牛から搾った生乳で、牛乳が作られているのです。

このように、酪農は生き物を相手にする仕事。エサやりも、掃除も、搾乳も、毎日行う必要があるため、労働時間は長くなりがちです。また、近年は高齢化や後継者不足に加え、エサ代や燃料代の高止まり、設備更新や投資向けの費用増大などもあり、酪農家戸数は減少しています。

◆地域を支える酪農の多面的な価値

酪農の持つ役割は、生乳の生産だけではありません。まず、牛のふん尿を堆肥にして、田畑に還元する「循環型農業」の基軸を担っています。

また、耕作放棄地の活用なども含め、日本の国土保全と里山の景観や環境の維持に貢献しています。

さらには、「酪農教育ファーム活動」(酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する教育活動)を行う酪農家も全国にいるなど、酪農は多くの役割を担っています。

